

自立活動（言語障害教育）

令和5年度特別支援学校教員資格認定試験問題

自立活動に関する科目（Ⅱ）

（問1～問6 全6問）

時間 11：30～13：10（100分）

（受験上の注意）

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、表紙を除いて1ページです。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答は、論述式です。
- 4 解答用紙は、問別に9枚あります。はずしたクリップは再度使用するため、なくさないようにしてください。  
別に下書き用紙が1枚あります。  
全ての用紙に、
  - ①受験番号欄  
受験番号を記入してください。
  - ②氏名欄  
氏名を記入してください。
  - ③選択した問題番号欄 ※問6の解答用紙のみ  
選択した問題番号（（1）～（6））を記入してください。
- 5 解答は、問と同じ番号の解答用紙に記入してください。  
解答用紙のおもて面に書ききれない場合は、うら面に記入してください。  
解答用紙の※欄は採点欄です。何も記入しないでください。  
筆記用具は、HBの黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
- 6 この試験の解答時間は、「始め」の合図があつてから、100分です。
- 7 当該試験開始から終了までは、退出できません。ただし、用便や発病等やむを得ない場合には挙手をし、監督者の指示に従ってください。
- 8 監督者の「やめ」の合図があつたら、解答を直ちにやめ、解答用紙を上から問1→2→3→4→5→6→下書き用紙の順に並べ、左上をクリップで綴じ、回収されるまで、着席したままで待っていてください。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問1 自閉スペクトラム症の言語・コミュニケーションの特徴について述べなさい。

問2 異なる障害種を二つ挙げ、それぞれの障害がある児童生徒に適用可能な音声言語以外のコミュニケーション手段を、障害種ごとに二つ示しなさい。ただし、異なる障害種に対して同一のコミュニケーション手段を示さないこと。

問3 摂食・嚥下障害の児童生徒に対する学校での摂食指導において、どのような配慮や工夫を行うべきか。次の①、②の視点からそれぞれ二つずつ挙げて論じなさい。

- ① 誤嚥による事故を予防するため
- ② 食べる楽しみを味わうことができるようにするため

問4 吃音の進展段階（第1層～第4層）について、吃音症状、吃音症状が生起する場、自覚・情緒性反応のそれぞれの面から説明しなさい。

問5 通級による指導で担当している児童生徒について、ケース会議を行うにあたり、準備・整理しておくべき情報について述べなさい。

問6 次の用語の中から四つ選び、それぞれの意味を説明しなさい。

- (1) 聴覚情報処理障害 (APD)
- (2) 遂行機能 (実行機能)
- (3) 吃音検査法
- (4) 破擦音
- (5) 合理的配慮
- (6) 場面緘黙 (選択性緘黙)